

## 第3回放射性廃棄物ワーキンググループに対する意見

平成25年9月20日  
福井県知事 西川 一誠

### ○ 論点B：現世代としての取組はどうあるべきか（資料1）

- ・資料1の6ページの核種分離・変換技術に関し、現在文部科学省が策定中の「もんじゅ」の新たな研究計画では、廃棄物の低減・低毒化を研究の大きな柱として推進することとしている。  
放射性廃棄物の最終処分地選定に向けた議論を進める一方で放射性廃棄物について最先端の科学技術を追求することが重要であり、国際的な連携と国民理解の下、「もんじゅ」を中核として放射性廃棄物の低減・低毒化の研究開発を積極的に進めるべき。
- ・使用済み燃料をプラント内にとどめたまま最終処分的手段も明確にならない状況で廃炉の議論を進めることはできない。立地地域にとって使用済み燃料の中間貯蔵は最終処分地の決定に先立ち解決しなければならない切迫した課題である。国は中間貯蔵や最終処分をはじめとする使用済み核燃料対策について早急に消費地を交えた協議を行う必要がある。